

気鋭の才能の融合が
読者の共感をがっちりつかむ

「恋していないと弱くなる。恋ばかりだと脆くなる。」5月に掲載されたルミネの広告のコピーである。毎回、女の子が抱えている気持ちを代弁するようなコピーと、それを後押しするような意志のある写真で構成されている。メッセージだけでもイメージだけでもない。その二つを見事に融合させ、ターゲットの心をがっちりつかむ。完成度の高い新聞広告は「ルミネっていいね」という共感を呼び起こす軸にもなっている。

や、メッセージが感じられるようなものが理想。それなら、もっと新聞自体がワクワクさせられるものになると思っています。前もって一年間の方向性を決めておき、具体的なビジュアルはその都度決める。イメージの共有は「お互いのチューニングが合っているから、多くを語らずともできる」と蜷川さん。尾形さんも「時間を追うごとにシンクロ度合いが増していると思います。もともと私は蜷川さんの写真が好きだったし、彼女と仕事ができることはとてもうれしかった。とはいえ、広告という匿名の仕事をする私が、蜷川実花という世界観のある人と一緒に手がけることに、最初はすごいビビっていました(笑)とこれまでを振り返る。



尾形真理子さん(左)、蜷川実花さん(右)

イメージをくみ取り、独自のビジュアルへと飛躍させる。「ファッションショーティングともポートレートとも違う。全体の世界観を大事に撮影しています」と蜷川さん。空というシンプルな背景について「尾形さんのひと言は、とても説得力があります。彼女を信頼しているから、やってみようって思える。私だけで作るなら、あれもこれも足していきたくなる」ところを、尾形さんはどんでも刺戟的な仕事でもありません」と語る。作家性の強い「蜷川実花ワールド」

を自在に操る尾形さんについて「私より年下なんですけどね、思い切り頼っています」と信頼関係の強さもうかがえる。

このシリーズのテーマについて「あえて言葉にするならば、『刺激と励まし』です。刺激だけでも励ましだけでもない、その両方があるのがルミネらしさだと思っと思っています」と尾形さん。芯の強さを際立たせるために、ときにネガティブな感情もにじませる。不器用さを隠さない表現は、見る人たちを安心させ勇気づける。その絶妙なさじ加減は、今の時代と真摯に向き合いリアルに生きる、ターゲットと

同世代である二人だからこそ。ルミネの広告を楽しみにするファンが多い。このシリーズのテーマについて「あえて言葉にするならば、『刺激と励まし』です。刺激だけでも励ましだけでもない、その両方があるのがルミネらしさだと思っと思っています」と尾形さん。芯の強さを際立たせるために、ときにネガティブな感情もにじませる。不器用さを隠さない表現は、見る人たちを安心させ勇気づける。その絶妙なさじ加減は、今の時代と真摯に向き合いリアルに生きる、ターゲットと

ターゲットと同世代の二人だからこそ

2月末に掲載された桜の花の背景も、今回の空の背景も尾形さんから発せられたアイデアだという。それに対し蜷川さんは「尾形さんの狙いや思いを描く

にながやみか、木村伊兵衛写真賞は数々の受賞。映像作品も多く手がける。2000年、映画『さくらん』監督。個展「蜷川実花展―地上の花 天上の色―」は東京、若手、鹿兒島、兵庫、高知の美術館を巡回。東京、鹿兒島では最多動員記録を更新し、合計約18万人を動員。10年、RIZZOI N.Y.の専属美術家。NINAGAWAの出版、世界各誌の課題など。蜷川実花監督映画「ヘルタースケルター」(7月14日)で全国ロードショー。予定原簿、岡崎京子/主演、沈虎元/也

おかた、まろし。2001年博報堂入社。おもな仕事は「LUMINE」廣告。東京海上自動車、日産自動車、Neat、Tiffany&Co.など。08年朝日広告賞。メンバー。東京コピーライターのメンバー。繊細な視点と大胆な発想から生まれるコピーワークに共感するファンも多い。試着室で思い出したら、本気の恋だと思おう(ベストセラー)で小説デビュー。

文/山下 薫 写真/星野章



2012年5月1日付朝刊掲載



2012年2月24日付朝刊掲載



2012年4月1日付朝刊掲載